**職能成長の要素について**

◇　教員としての職能成長に大きな関りがあることについて，私見的に要素整理を試みてみました。既に『〔６〕学校

での職能成長』で捉え方の一端を述べていますが，ここでは関りの強い要素ごとにまとめてみました。

◇　学校組織の中には，校長・教頭・教諭などの「職責」が明確に位置付けられている職・役割があり，生徒の教

育に連関してそれぞれの「職責」に関わる人たちが一体的に機能することで効果が高まる意味において，それぞれ

が日々の業務を円滑に担いながら職能成長を果たすことが大事なことだと思っています。

ことが大事なことだと思っています。

◆ 生徒との関りからの学び

＊実体験・実践の意義・重み

＊「集団」視点と「個別」視点

＊授業も学級経営も

　　マネジメント視点が重要

＊生徒には「現代社会」が

　凝縮している

◆ 仕事からの学び

　＊業務のPDCAサイクル

の実践からの学び

　　⇒改善工夫の大事さ

　＊「判断」の自己検証

　＊「組織」を学ぶ

**職能成長の基本原理**

《 意欲と努力 》

**基本姿勢**

**◇ 視野を拡げる（複数視点）**

**◇ 視点を高める（俯瞰・微視）**

**◇ 全体像を掴む**

**◇ 構造的に繋がりを捉える**

◆ 校外関係者からの学び

　＊研修・研究会参加

　　　⇒＋αの意義が高い

　＊他校事例・実践等

　＊地域・学校関係者

◆ 先輩・同僚からの学び

　＊実務を学ぶ

　＊考え方・捉え方を学ぶ

　＊「人柄の良さ」を学ぶ

　＊リーダーシップを学ぶ

《残念事例》 ・・　高いレベルの良い力がありながらも，「もったいない」と感じてきた事例

◎　一定の経験を経てからも，今の忙しさ，目の前のことを「片付ける」ことのみに重きを置きすぎる

⇒　全体像との繋がり・方向性の弱さ　⇒　努力のもったいなさ

◎　自分なりの思い込み・価値軸判断を優先して，良いと思える手法などの取り入れが弱い

⇒　業務の「仕上げ」まで至らない

◎　資質・能力が高いゆえに，比較的簡単に業務を「表層的に」片付けてしまい，深掘りできない

◎　業務・仕事への対処案件なのに，周りの動きや案件の要素に対しての気持ち・感情が優先する

◎　上手くいかなかった事案などについて，自己弁護の理由・説明が先に立ち，過去釈明に終始する

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（令和3年10月7日）